

# THE リアルタイム

Vol. 43

サポートセンター連からお届けする生活支援情報誌



## 特集: イベント 連 GALLERY ~Community & Art~

### INDEX

- P1 表紙/ごあいさつ
- P2~P3 今号の特集
- P4 日中活動支援事業
- P5 相談支援事業
- P6 グループホーム  
職員リレーエッセイ
- P7 一粒万倍
- P8 活動紹介コーナー  
情報/編集後記

毎年、秋口に開催している「連・ふれあいまつり」、密対策が重要な今、昨年同様、今年も断念しました。しかし、今年は、例年の賑やかなおまつりにこだわらない方法で開催……その名は『連GALLERY』です。アート展として、地域の方、障害のある方……いろいろな方のさまざまな作品を展示して、みんなで静かに楽しもう!という、コロナ禍における初めての企画です。(詳しくはp2参照)

自治会から、「コロナで地域のつながりが途絶えてしまったけど、連さんのお陰でまた元気が出たよ!」と、ありがたいメッセージをいただきました。

試行錯誤の中での開催でしたが、障害のある人たちのパワーと、地域の皆様のご理解とご協力で、充実と感動を得られる貴重な3日間になりました。

ありがとうございました。

センター長 白鳥基裕

# 連GALLERY

～Community&Art～

連・ふれあいまつりの想いをそのままに…地域のみなさんと一緒に。

毎年開催していたふれあいまつりがコロナ禍で実施できない中、地域の方々にどう感謝を伝えるか…模索する中で「工夫すれば出来るのではないか」と考え、ギャラリー展示という形で地域の方々への感謝を伝えるイベントを企画。10月8日～10日にかけて開催しました。

## 作品展示



自治会を始めとした地域の方や他事業所の利用者さんなど、さまざまな作品が集結し、無事にギャラリーを迎えられました。絵画や写真、陶芸…。特技を動画で撮影した作品などもありました。

どれも素敵な作品ばかりで、訪れたお客様も真剣な表情でご覧になっていました。作者の思いが込められた素敵な作品たちを皆さまに見ていただけたことは、委員としてもうれしく感じました。(水野)

1日目の「みなまきラボ」でのステンシルのワークショップ。ボランティアさんがワークショップに来られて久しぶりに再会し、一緒にステンシルをして楽しく過ごしました。

2日目のプレスレット作り。必要な道具や材料を参加者に渡す仕事を担った利用者の駒崎さ

ん、バタバタ忙しくしているスタッフに気をとられず緊張する様子もなく堂々としていました。

3日目の缶バッジワークショップでは、利用者の稲垣さんが持ち前のスマイルで参加者をおもてなし。おもちゃ文庫を利用されているお子さんとご家族との交流も見られました。(水野)

## ワークショップ



## こんがり工房



ギャラリーの開催に向けて、こんがり工房もリニューアル。新作パンをいろいろ検討してデニッシュパンを製品化し、ドリンクメニューを増やしてイートインを強化しました。

ギャラリー期間中の特別メニューとしては、これまで工房2で試作を重ねてきた「シフォン

ケーキ」を提供。レジ周辺を改装し、連の自主製品の陳列も一新しました。

一日目から多くの方がこんがり工房にも足を運んでくださり、工房内は大忙し。特に新作デニッシュパンの売り上げは好調で、焼き直しをしないと追いつかないほどでした。(川浪)

活動中の利用者さんの真剣な表情、余暇で見せる連で安心して過ごしている様子の人間味溢れる姿……。これまで利用者さんとスタッフで切磋琢磨して築いてきた活動と「心」を伝えることを意識し、

「活動」があることの意義を改めて感じながら編集しました。地域の方が「連ってどんなところなのか分からなかったけど、動画を見てわかりました」と感想を伝えてくださいました！ (大野)

## 連紹介動画



THANK YOU!

自治会



連がこの地で活動できているのは地域の皆さまのおかげです。「支え合う」というおこがましいですが、皆さまとのつながりをより深めたく、ギャラリー開催にあたっては自治会の方々に厚かましくご協力をお願いしました。とても積極的にご参加

くださり、資材の貸し出しから会場の設営・撤収、作品のとりまとめなど、イベント全般を通してとことんお付き合いくださいました。

地域のコミュニティがイベントを盛会に導いてくれたと感じています。(禾木)

出展者の中には、進路が上手くいかずに家に閉じこもってしまった人、不安感で社会に踏み出せない人など、生きづらさを抱えながら暮らしている方もいます。得意なことはたくさんあり、芸術性の高い作品を多く作られています。

その方々の趣味や特技を知ってもらいたい……という支援者の想いで出展をお誘いしました。

最初は「自信がない」「大丈夫かな」と心配されていましたが、やり取りを重ね、最後は思い切って「挑戦する」と選択されました。

会場に足を運んでいただいた多くの方々にもご本人たちの想いが伝わったことと思います。今回の経験を通して、ご本人たちが達成感ややりがいを感じて次に進めることを願っています。(佐藤)

出展者の想い



THANK YOU!

法務局駐車場

模擬店を出すには駐車場の送迎車を敷地外に移動する必要があります。そこでご協力いただいているのが横浜地方方法務局旭出張所です。

遡ること11年前、駐車場の確保に困ったイベント委員が当時の所長さんに相談したところ、「地域貢献として」と駐車場の使用をご快諾くださいました。第3回開催から毎年お世話になっています。今年の連ギャラリーでも、コロナ禍にも関わらず2日間に渡って使用許可をいただきました。大きな繋がりを感じています。(大野)

ま ・ と ・ め……

「コミュニティとアート」。この名前は「アートを通じてのふれあい」ができれば……と考えてギャラリー委員会でご名付けました。コロナ禍でどれくらいのお客様が来場くださるか予想しづらかったのですが、3日間を通して約250名の方がご来場くださいました。久しぶりに地域の方をお迎えし、「人との関わりは格別だな」と、うれしさとともに実感しました。

展示レイアウトのアドバイスや組み立てのご協力をいただいた地域の方、何よりも作品を提供していただいた皆さまのおかげで館内は魅力的な会場となりました。改めてこのギャラリーを開催できたことを感謝しています。(大野)

クッキーレシピ大公開!

連ギャラリーのお客様にプレゼントした新商品“レーズンクッキー”のレシピを紹介します!



- ～材料～ 約25枚分
- ・レーズン 120g
  - ・薄力粉 200g
  - ・ベーキングパウダー 4g
  - ・全卵 1個
  - ・グラニュー糖 35g
  - ・きび砂糖 90g
  - ・バター(常温) 150g

生地は冷凍保存できます!

- ①ボウルに柔らかくなったバターを入れ、泡だて器で混ぜる。
- ②グラニュー糖・きび砂糖を何回かに分けて入れて混ぜ合わせる。
- ③全卵を入れてさらに混ぜる。
- ④薄力粉・ベーキングパウダーを合わせて振るう。
- ⑤振った粉④をボウルに入れ、ゴムベラで混ぜる。
- ⑥粉が混ざったら、レーズンを入れて混ぜ合わせて生地の完成!
- ⑦生地を平たくまとめてラップに包み、冷蔵庫で1時間以上冷やす。
- ⑧鉄板に30gずつ、形を整えて並べる。
- ⑨180℃のオーブンで13分焼いたらクッキーの完成!

今年度初イベント

## 流しそうめん開催！

工房3の休み時間でのひよんなやりとりで生まれた、流しそうめんイベント。利用者の天野さんが『8月 流しそうめん』のジェスチャーをされたことからやってみようとなりました！ コロナ禍ということもあり、なかなか季節感が感じられないまま毎日過ぎていく日々……夏らしいイベントを！と企画しました。

流しそうめんと言えば……そうめんを流す台は竹で作りたい！と、利用者の浅野さんのお宅に竹をいただきに伺いました。準備段階では、送迎ドライバーさんたちが積極的にそうめんの台をきれいにしようと加工してくださり、組み立てが得意なスタッフの協力で、素敵な竹の台が完成しました！

当日は「参加したい！」と手を挙げてくださった利用者さんを時間ごとに分けて密を避け、食べるそうめんは事前に紙コップに入れて麺つゆをかけるだけの状態にし、流すそうめんは流すだけで食べない……と、感染対策を徹底しました。

いざ、そうめんを流し始めると、上手く箸でつかむことができなくて悔しそうな表情をしたり、上手につかんで笑顔を見せてくれたりと、それぞれ思い思いに楽しまれているようでした。イベントを企画するきっかけとなった天野さんも、そうめんをつかんでニヤッと笑っていて、一緒に企画し楽しめたと、うれしく実感しました。

今後も感染症の影響は続くと思いますが、しっかり対策をしながら利用者さんが季節感を感じられるような、「こんな状況だからこそできる企画」を考えていきたいと思えます。

(水野)



### 今月のイチオシ！

新商品やおすすめの自主製品を紹介

#### ワクチン接種済、& マスクできません、バッジ

どちらのバッジも、さりげなくお伝えするバッジがあれば、とご依頼をいただいて作成しました。

日中活動での取り組みの一つである缶バッジの製造は、コロナの影響もあって減っていますが、地域のみなさまの「こんなバッジがほしい！」に応えられるよう、今後も利用者さんと一緒に製品作りを続けていきます。オリジナル缶バッジのご注文もお受けしております！ ぜひお問い合わせください！（天内）



イラスト：清水ひかるさん

小 100円(32mm)  
大 200円(56mm)



旭区基幹相談支援センター & 旭区役所プレゼンツ

# あさひ障害福祉公開講座 特集

障害児者に関わる支援者のみなさまに知識や技術を学んでいただけるよう、年間を通して研修会を開催しています。(あさひ障害福祉公開講座は、旭区基幹相談支援センターと旭区役所の連携事業です)

## 発達障害基礎研修 報告 (6月・7月・8月開催)

毎年開催している、笹先生による「発達障害基礎研修」。今年度は「乳幼児・学童期」「青年期(思春期)」「壮年期」とライフステージに応じた研修を行いました。一括りに「発達障害」といっても、ご本人は、年齢や経験を重ねていく中で発信する行動や言葉も大きく変わっていきます。そのため、その年代ごとの適切な関わりを知ることで、自立にむけたより良い支援に繋がるのではないかと企画しました。

### 6月「乳幼児期・学童期編」

幼少期に身につける「人間力を育てる」ことの重要性を学びました。定員超過で参加をお断りしなければいけないほどの盛況でした。



講師：笹 一誠 氏  
一般社団法人  
「笹 Takamura 協会」顧問

### 7月「青年期(思春期)編」

心身ともに大きな変化を迎え、また環境も大きく変わる中での本人を理解するために、支援者としてどのように受け止めるべきかを学びました。

### 8月「壮年期編」

自立に向けた支援の中で、自閉症を改めて捉えなおす必要があることを学びました。

笹先生の温かみのある言葉で、自閉症の方のエピソードを交えた解説や、すぐに実践に繋がる対応方法などをお話しいただき、今までの疑問や支援についての“気づき”が持てたという参加者も多かったようです。



感染症対策のため、会場とオンラインのハイブリット開催にも挑戦！

11月以降も、今話題の「親なきあと」や「ダウン症」、そして大好評「あさひ又村塾」と目白押し!!  
オンラインとのハイブリット開催も行います! ぜひ、ご参加下さい!!!

講座名	日時	講師	場所
ダウン症基礎研修② 《成人期編》	11月8日(月) 10:00~12:00	藤 圭二氏 みどり地域活動ホームあおぞら所長	二俣川地域ケアプラザ オンライン開催
障害者支援における権利擁護② ~虐待防止と意思決定支援~	12月2日(木) 17:00~19:00	高山 直樹氏 東洋大学社会学部教授	サポートセンター連 オンライン開催
障害のある子の自立生活を考える② ~親亡きあとに備える~	1月18日(火) 13:30~15:30	相談支援機関のご紹介	二俣川地域ケアプラザ
あさひ又村塾③ ~内容未定~	2月16日(水) 17:00~19:00	又村あおい氏 手をつなぐ育成会	サポートセンター連 オンライン開催

※コロナウイルス感染症の状況によって、開催方法が変わる可能性があります。

詳しくは、旭区基幹相談支援センター (TEL: 045-360-7000) までお問い合わせください。

キラキラとした夏の思い出を作りたい！  
サザンビーチで仲間たちと海と太陽を満喫！

今年の夏は緊急事態宣言が出る前に、茅ヶ崎にあるサザンビーチに出かけてきました！

当日は天気にも恵まれ、絶好のお出かけ日和。久々の外出という事もあり、皆さんテンションが高く笑いも絶えないほどでした。車内はあまり喋ってはイケないのですが…（笑）

いざ、ビーチに到着すると開放的な気持ちになるみなさん。密にならない海辺で足だけ海に入りました。夏の日差しや潮風も心地よく、スタッフも一緒にみんな笑顔になりました。

自粛が続く中ですが、楽しみながらストレスを発散する方法を考えて余暇や外出を行っていきたいと思います。コロナが落ち着いたら、皆さんが好きな場所に出かけたいと思います。  
（伊藤）



in 茅ヶ崎



冷たくて  
気持ちいい～!!



初めての海外出！  
表情もやわらいでいます。

## 支援者の意気込みや思いを語るリレーエッセイ

Good Job!

### 地域共生社会に向けて、日々の支援の中からできることを実践していく！

日中活動支援、工房1と工房2の主任補佐になりました。栄区から異動して日中活動の仲間になったのが連年の開所2年目。その後、旭区のグループホームの立ち上げや後見的支援事業などを経て、また日中活動に戻ってきました。勤務年数も栄区より旭区のほうが長くなり、「思えば遠くへきたもんだ〜♪」という歌(旧い…笑)が脳裏に浮かんでくるくらい旭区の皆様にはお世話になっています。7~8年ぶりに再会した利用者さんからは確かな成長を感じ、心強く思っています。

昨今は国を挙げて「地域共生社会の実現」がうたわれています。他事業を経験する中でも、地域との関わりの大切さを感じてきました。同じ社会にいても、自分たちが生きてきたのと近い世界しか知らずにいると、それ以外を想像できなくなってしまうのではないかと考えたりもします。その行きつく先は「分断」という深刻な事態です。だからこそ、多様な出会いの場や機会を日々の生活の中につくり、理解を深めていけるかが問われると思います。もちろん、これは法人も連も、ずっと大切にしてきたことです。

コロナ禍の今だからこそ、日中活動の利用者が培ってきた力を活かすためにスタッフとして想像力を働かせ、地域共生社会に向けてできることを皆さんと一緒に実践していきたいと思っています。

最近では年甲斐もなく、最近プレデビューした「BEFIRST」という男性ボーカルダンスグループにはまっています。その才能の煌めきにすっかり虜です。次は、そのグループのエースで最年少のROUHEI 君に似ていると勝手に思っている、日中活動の羽田さんにバトンを渡します。



川浪 一郎 (かわなみ・いちろう)

大学卒業後、福祉の専門学校に再入学、社会福祉士資格取得。その後、訪問の家に入職前、一年間国際 NGO のボランティアでタイの農村部で暮らす。水牛と多種多様な虫との共生社会は経験済み。



## コロナ禍に負けない販売への思い……

サポートセンター連では、通所している利用者さんの希望や強みを活かしてさまざまな活動をしています。しかし昨年からのコロナ禍は、緊急事態宣言の発出や行動制限、三密回避などの感染防止対策によって利用者さんの活動にも大きな影響を及ぼしました。特に、パンやクッキー、手工芸品などの自主製品の販売では販売機会が激減し、売り上げも減っています。

そんな中ですが、サポートセンター連のパン屋さん「こんがり工房」は感染防止対策を施して営業を続けています。その店員である利用者のNさんを紹介します。

Nさんは養護学校高等部を卒業して平成28年度から通所を始めた23歳の方です。現在は日々の活動として製菓活動のクッキー作りを担当しており、得意な生地作りを中心に取り組んでいます。製造に携わることが多いので店員としての活動は週1回だけですが、その週1回の販売活動に並々ならぬ熱意で取り組んでいるのです。

「並々ならぬ熱意」の理由の1つは、「自分が自信を持って作っているクッキーを知ってほしい！ たくさんの人に買ってほしい！」という思いです。販売を担当しているときに自分が作ったクッキーが売れると、クッキー作りへのモチベーションにつながり、またがんばって作ろうと思うそうです。

もう一つの理由は、売り上げが減ると工賃が少なくなってしまうかもしれないことです。Nさんは、通所を始めるにあたって「社会人として仕事をしたい！」「給料を稼いで好きなものを買いたい！」と強く話していました。イベントなどの中止で販売機会が激減し、売り上げも減っている状況を何とかしたいとNさんは思っています。

ある日の販売活動では、お客さんがなかなか来店しませんでした。「このままではダメだ！」と思ったNさんは、職員に「店の外に出て呼び込みをしたい！」と訴えました。イベントでは店先でチラシを配って呼び込みをすることもありましたが、通常の販売日に呼び込みをしたことはありません。「なんとかして一人でもお客様に来てもらいたい」。その思いでNさんは店先で呼び込みを始めました。するとNさんの気持ちが伝わったのか、歩道を歩いていた何人かの方がご来店くださいました。Nさんはお客様一人ひとりに「いらっしゃいませ！」「ありがとうございました！」とうれしそうに大きな声で伝えていました。Nさんの熱意がお客様に伝わったのだと思います。

コロナの影響は続きますが、「仕方がない……」とあきらめるのではなく、さまざまな工夫を考えるとともに、Nさんが教えてくれた原点である「思い」を忘れずに取り組んでいきたいと思います。

(副所長・小原敏裕)



おいしいパンやクッキー、手工芸品などを販売している「こんがり工房」です。機会がありましたらぜひお立ち寄りください！





屋上の花壇を再生して野菜作りに挑戦！  
旬の野菜を育てはじめました！

最近、連の事務所でこんな会話が盛んに交わされているようになりました…！

「なす、こんなに採れたの？」「お味噌汁にして食べたらおいしかったよ！板宮さん。」などなど…

3階の屋上の花壇は、しばらく土のままだったので、ドライバーの佐藤さんが趣味の野菜づくりを活かして土づくりから行い、凄い農園を作ってくださいました。

かねてから趣味の野菜づくりで交流があった工房2の板宮さんも合流。その一角を借りて、ピーマンづくりに挑戦するなど、「グリーンファーム」と称して二人で壮大な耕作計画を練られています。

夏は、ピーマンの他にもきゅうりやナス、枝豆などがたくさん収穫できたので、みんなで分け合っていました。秋になり、今度はキャベツやブロッコリー、お花も植えて、バリエーション豊かに農園を活用しています。これからの野菜や花の成長が楽しみです！

(川浪)



みずみずしい野菜たちが採れました！



ドライバーの佐藤さんと、工房2の板宮さん

Facebookでは、イベント情報なども随時更新中！

<https://www.facebook.com/supportcenterren/>



●紙相撲大会

11月12日(金) 対象:地域の親子さん  
会場:みなまきラボ

●クリスマスオーナメント作り

12月10日(金) 対象:地域の親子さん  
会場:みなまきラボ

●年末年始休業

12月29日(水)~1月3日(月)

※地域の方を対象としたイベント詳細は、連の掲示板でお知らせします。また、各種イベントは感染者拡大の状況に応じて中止となる場合があります。

ボランティアさん大募集！

サポートセンター連では、日中活動を中心に、ボランティアさんを募集しています。

利用者さんといっしょに製品作りやお散歩、おしゃべりを楽しみませんか？

お気軽にお問い合わせください。

TEL 045-360-9778 担当:成田

編集後記

●緊急事態宣言が明けて街の雰囲気が少しずつ変わってきた。活気と見るか緩みと見るかで心構えも変わると思うけど、大事なことは1つだけではないことを肝に銘じながら暮らしていきたい。(野村)

●朝晩の寒暖の差が激しくなり、いよいよ秋本番になりました。今年も残り2か月だと思えば驚きです。それでも食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、…といろんな秋を満喫して冬を迎えたいなあ。(水野)

●「10月なのに暑い！」と言って油断していたら、急に冷え込む日が増えて慌てて衣替えをしました。緊急事態宣言も明けたので、冬用のコートでも買いに行こうか検討中です！(山野上)

●コロナ禍で色々なコミュニケーションツールが使われるようになりましたが、やっぱり顔を合わせて話すって大切だなと感じます。みんなでノーマスクで笑いあえる生活に早く戻りたいですね！(田村)

当法人への寄附金は、「寄附をいただいた方の「所得税(国税)の所得控除及び「横浜市の個人市民税」「神奈川県民税」の寄附金控除の対象になります。ただし、二千元を超えた額が対象です(寄附額二千元以上)。「不明な点は、訪問の家本部事務局(電話〇四五八九四四六四〇)にお問い合わせ下さい。」

サポートセンター連 機関紙 「THE リアルタイム」第42号(令和3年11月1日発行)

発行者:サポートセンター連・広報担当 住所:横浜市旭区柏町59-2 TEL 045-360-9778 FAX 045-360-7004

社会福祉法人 訪問の家 ホームページ

<http://www.houmon-no-ie.or.jp>

旭区地域自立支援協議会 ホームページ

<http://asahiku-net.webnode.jp>